

3. 歴史・文化

(1)琵琶湖・淀川がはぐくんだ歴史

- 古代から琵琶湖・淀川流域は舟運が盛んで、平城京の造営や平安京の生活を支える物流の手段として活用された。

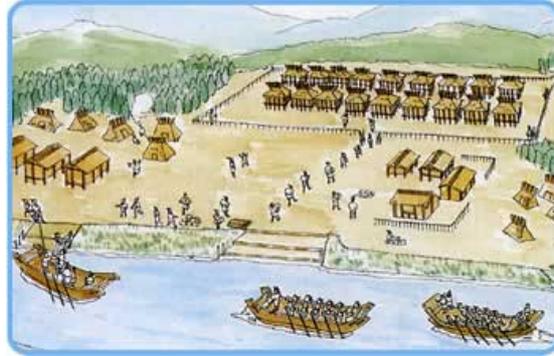


図3-1-1 難波津

- 安土・桃山時代には、丸子船による琵琶湖舟運が盛んに行われた。

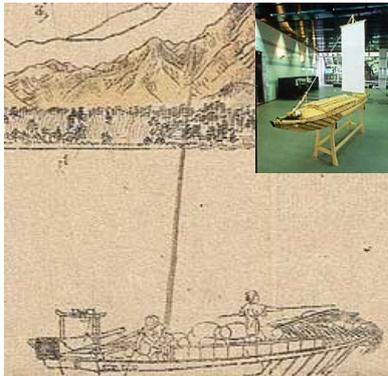


図3-1-2 丸子船 琵琶湖



図3-1-3 琵琶湖の舟運及び街道

出典)第3回世界水フォーラム
ファイナルレポート

- 豊臣秀吉が太閤下水や太閤（文禄）堤を整備した。



写真 3-1-1 大阪市 太閤下水

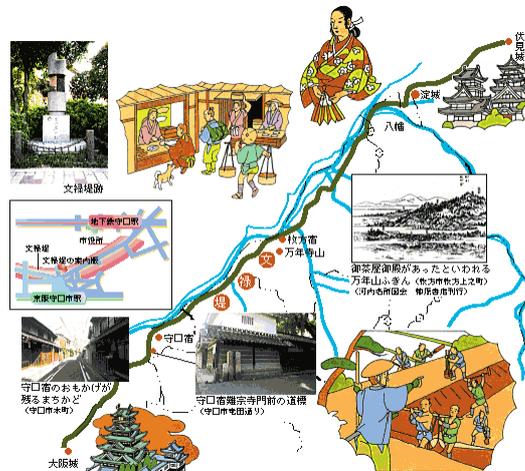


図 3-1-4 太閤(文禄)堤

出典)大阪府

■ 江戸時代には、天下の台所大阪と京都を結ぶ大動脈として、淀川流域は栄えた。



図 3-1-5 京都 三条



図 3-1-6 くらわんか船

■ 明治以降、琵琶湖疏水やオランダ堰堤等の先進的な整備が行われた。



写真 3-1-2 京都 蹴上のインクライン



写真 3-1-3 南禅寺 水路閣



写真 3-1-4 オランダ堰堤

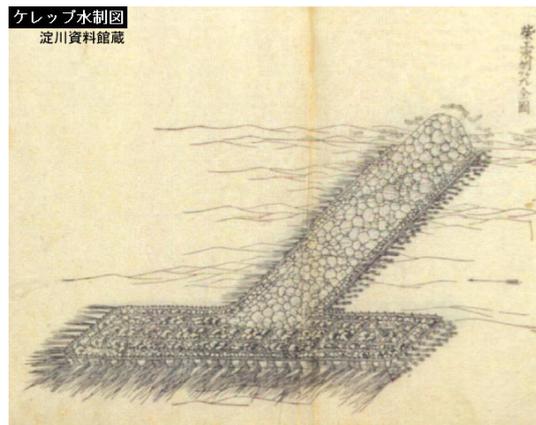


図 3-1-7 ケレップ水制

■ 京都と淀川を結ぶ交通の大動脈であった淀川の舟運は幕を閉じて以来約 40 年間、舟運は伏見・観月橋周辺での観光や淀川下流部における砂利採取の土運搬船等の運行にとどまっている。

課題(歴史)

- 水によって育まれてきた琵琶湖・淀川流域の歴史的な価値や、魅力を再発見し、情報発信していくことにより、観光都市としての付加価値を与え、地域振興に寄与することが期待される。

このため、流域ガイドブックや流域マップの作成等、情報発信の取り組みを積極的に行う必要がある。

また、各地域の独自性ある歴史文化を継承するとともに、水と人々の関わりの中で作られてきた土木遺産の保全・活用等、流域が一体となった地域振興に取り組む必要がある。

- 琵琶湖や三川合流地域～淀川河口部等、歴史的な水上ルートを活用して舟運を復活させ流域の交流や連携を図ることは、広域観光の振興等、流域の活性化に繋がると考えられる。

このことから、水運によって育まれてきた歴史を活かした「川の駅」「湖の駅」等の整備とネットワーク化による地域活性化に取り組む必要がある。また、日常的に船舶の利用が可能となるような河川整備及び船舶の開発が望まれる。

- 琵琶湖・淀川流域には国宝等の歴史文化遺産が集中し、重要な木造建築物が多い地域であることから、河川水、下水処理水、湧水等を利用した防災対策が望まれる。

(2)流域の人々の暮らしの中の水文化

- 琵琶湖・淀川流域では水に関する祭りが各地で行われている。一例として滋賀県の船幸祭、三重県の愛宕の火祭り、京都府の三船祭、矢取神事、大阪府の天神祭等がある。



写真 3-2-1 滋賀 船幸祭

出典)大津市



写真 3-2-2 三重 名張夏祭(愛宕の火祭り)



写真 3-2-3 京都 車折神社 三船祭

出典)水鏡(京都市)



写真 3-2-4 京都 下鴨神社 矢取神事

出典)水鏡(京都市)



写真 3-2-5 大阪 天神祭

- 琵琶湖・淀川流域と人々の暮らしとの関係は、水の都と呼ばれてきたように、古くから水と深い関係にあった。一例として、琵琶湖での「えり」漁や京都での「そど」等がある。



写真 3-2-6 えり（琵琶湖に古くから伝わる漁法）

出典)滋賀県



写真 3-2-7 そど（公共の水場）

出典)水鏡(京都市)

課題(水文化)

- 様々な水に関する祭りや産業、ふなずし等の個性ある水文化を次世代に伝えていくためにも、水と人・暮らし・産業の結びつきを再認識するとともに、流域での水環境をまもり、より良いものにしていく必要がある。
また、現代社会に合わせた新たな水文化を提唱し、情報発信するような取り組みも必要である。
- 水質保全や水資源の持続可能な利用を図るため、伝統的な水に関する知恵を見直し、環境負荷を低減するライフスタイルへの転換が望まれる。

4. 流域の連携

(1)第3回世界水フォーラム

- 2003年3月16日から23日の日程で京都、滋賀、大阪において開催された第3回世界水フォーラムは、150カ国以上から24,000人を超える人々が参加して行われ、流域全体で会議を成功に導いた。
- 第3回世界水フォーラムにより、流域での一体的な取り組みが重要であることを再認識し、今後さらに連携を深めていくことが確認された。
- このフォーラムを契機に高まっている流域連携の気運を一層促進するために、琵琶湖・淀川流域において、連携の意識(啓発)、連携の場(拠点)、連携の仕組み(制度)等の構築が期待されている。また、流域としての先進的な取り組みに内外から大きな期待がよせられている。

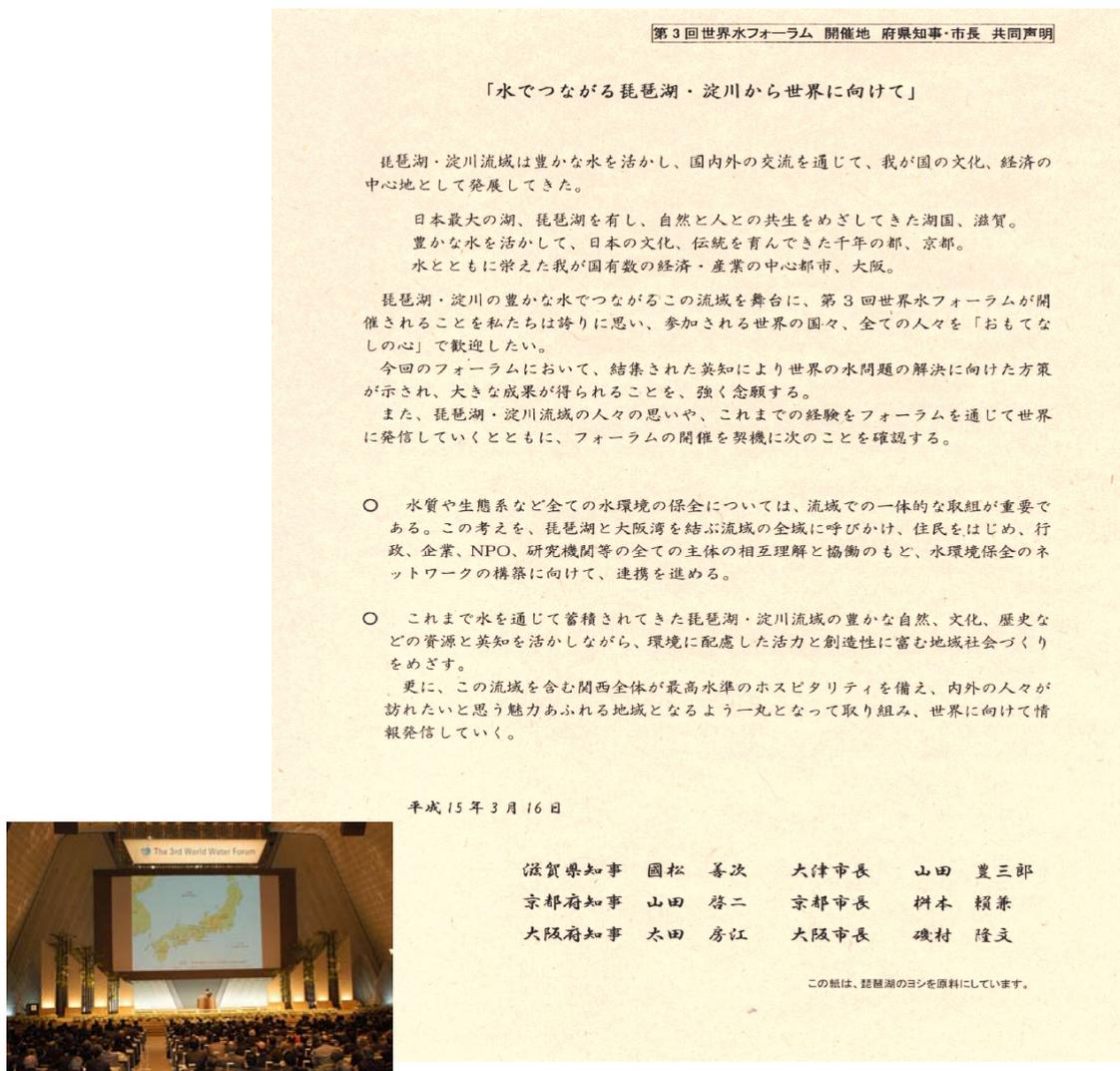


図4-1-1 第3回世界水フォーラム 開催地 府県知事・市長 共同声明

(2) 様々な取り組み

- 市民、NPO、学校、研究機関、企業等、流域で水環境改善に関わる人たち相互の情報交換をスムーズにし、流域内交流を促進させるネットワーク作りをはじめている。

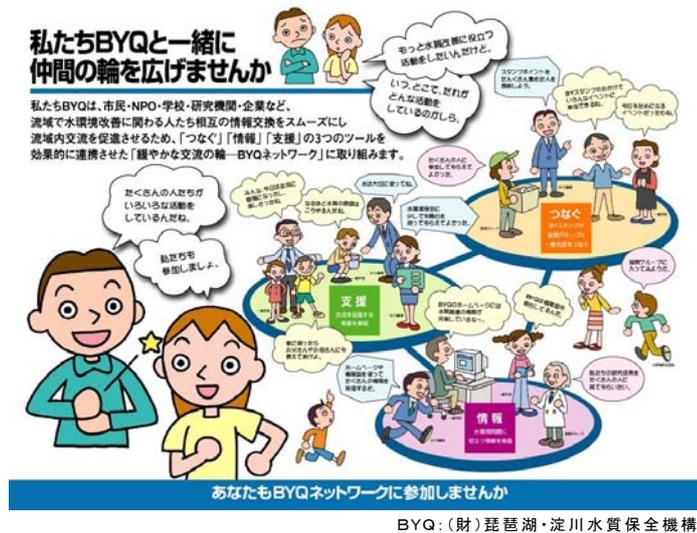


図4-2-1 BYQネットワーク

出典) (財)琵琶湖・淀川水質保全機構

- 関西は、国指定の国宝の約6割、重要文化財の約5割が集積しており、世界的にも「歴史文化の宝庫」と呼ぶにふさわしい地域である。

現在、歴史文化面を切り口とした広域プロジェクトとして、関西をわかりやすく内外の人々に紹介していくための役割を担うものとして歴史街道計画が進められている。

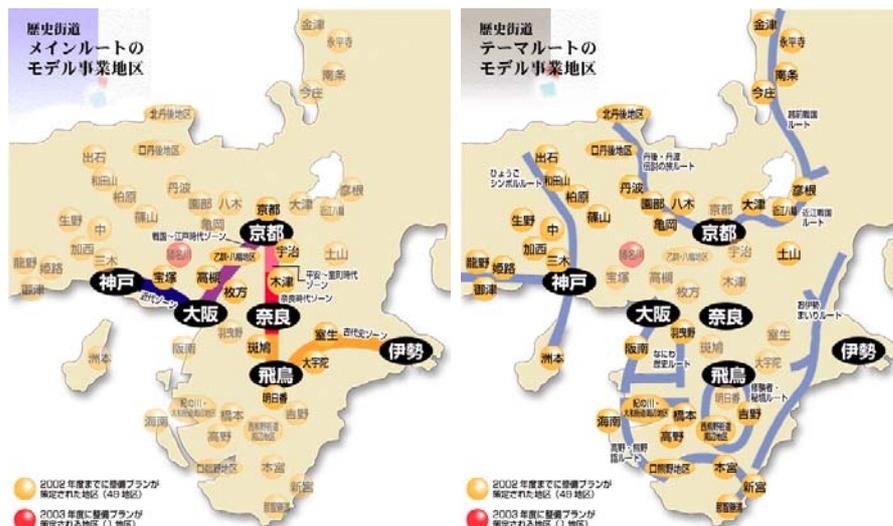


図4-2-2 歴史街道

- 地域を構成する住民、企業、行政の三者が協力して専門組織（グラウンドワーク・トラスト）を作り、身近な環境を見直し、自らが汗を流して地域の環境を改善していく活動（グラウンドワーク）が進められている。



写真4-2-1 滋賀県 グラウンドワークの取り組み

出典)滋賀県

- 河川敷や道路等の一定区間を行政と住民、学校、企業等が協力し、ボランティアによる清掃活動等が進められている。大阪府では、リバープログラムとして24団体（H15.8）、ロードプログラムとして68団体（H14.10）が清掃等の活動を行っている。

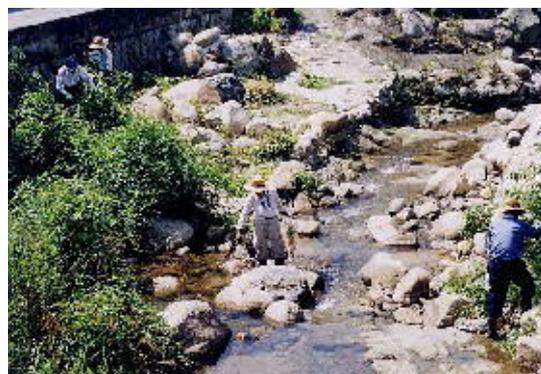


写真 4-2-2 大阪府 茨木川(佐保川)での清掃活動

出典)大阪府

- 様々な団体による河川の清掃活動や、森林環境保全のための取り組みが行われている。一例として英真学園高等学校の生徒等約1,100人が淀川河川敷十三大橋付近をクリーンアップしている。



写真 4-2-3 淀川でのクリーンアップ

撮影)平成15年11月

出典)(財)琵琶湖・淀川水質保全機構

- 三重県のかわたろう祭、奈良県の淀川源流まつり、滋賀県の環境学習船「うみのこ」等、各地で様々な取り組みが行われている。



写真 4-2-4 手作りいかだによる川くだり
三重県 名張川 かわたろう祭(NPO、名張市、三重県、
名張市消防署、国土交通省、水資源機構、企業の協力
によるイベント) 出典)川の会名張



写真 4-2-5 奈良県 榛原町(淀川源流まつり)
出典)奈良県



写真 4-2-6 滋賀県 環境学習船「うみのこ」
出典)滋賀県

課題(流域の連携)

- これまでの取り組みでは、それぞれの主体が独自に行うことも多かったが、今後は住民をはじめ、NPO、研究機関、企業、行政等多様な主体が協働するとともに、それぞれの意見や知識、情報等を交換し、効果的な連携と役割分担等を行っていく必要がある。
- 流域が一つになって様々な問題に取り組むことにより、地域の風土性として培われてきた流域意識の再構築が必要である。
地域ごとに取り組んできた課題を歴史街道等、広域的なテーマでくくり、未知普請等と合わせて流域全体で気運を高め、取り組むことが必要である。
- 琵琶湖・淀川流域圏をひとつとしてとらえ、NPOが主体となって運営する仕組みや流域のあるがままの姿を“生きた博物館”と見立てて、流域住民の意志と力によって運営していく場を創設する等、流域が一体となって取り組むことが必要である。また、次代を担う子ども達を対象に、淡水資源の保全・源流域の水源かん養の必要性や利水・親水の現場において体験的に学ぶ機会を増やすことが望まれる。